

佐野市民文化振興事業団報

かがやき

題字／旭岡聖順

第17号

平成23年8月1日

発行

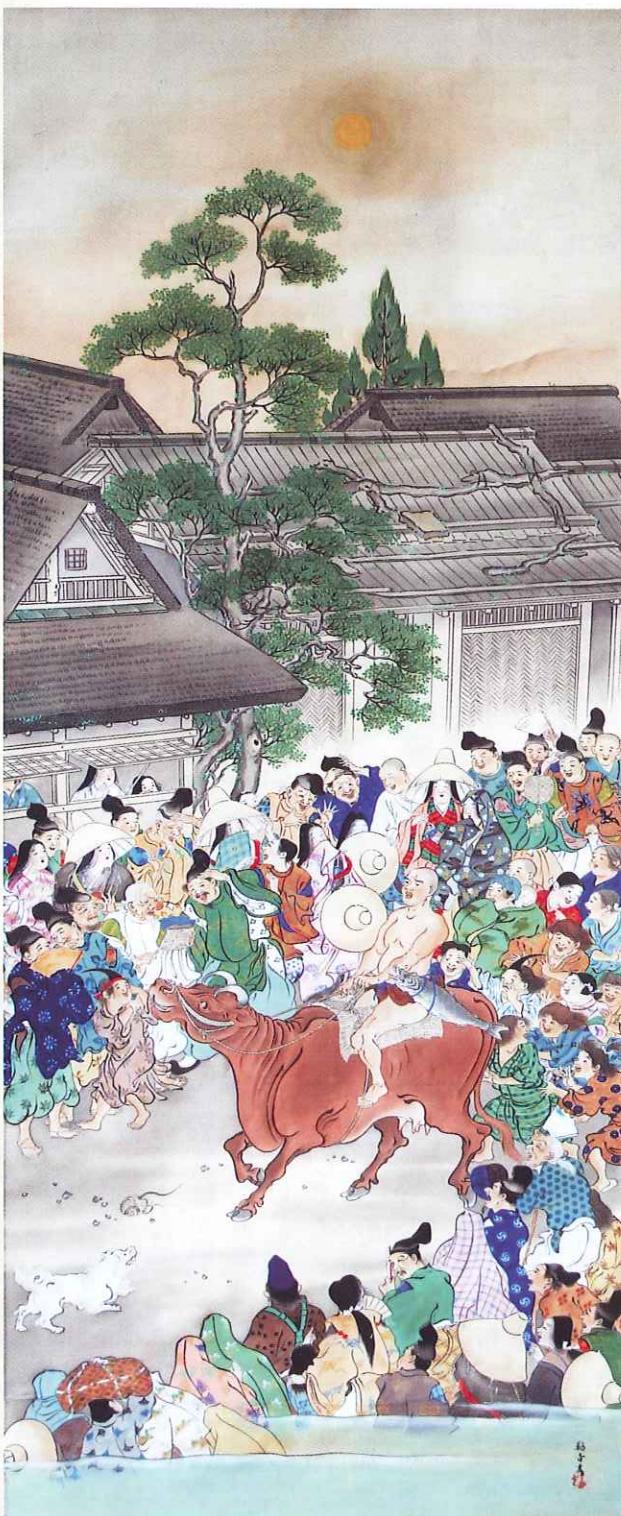
(財)佐野市民文化振興事業団

栃木県佐野市田沼町974-1

電話 0283-62-9554

FAX 0283-62-8929

<http://www.mirun.sctv.jp/~z-sabn>



小堀鞆音 聖宝僧正渡一条大路図(佐野市郷土博物館蔵)

「没後八十年 小堀鞆音展」

10月1日(土)～11月13日(日)

■ 佐野市郷土博物館・佐野市立吉澤記念美術館同時開催

財団法人佐野市民文化振興事業団企画展共催事業

理事長あいさつ



財団法人佐野市民文化振興事業団理事長 太田 哲夫
「事業団の新たな可能性を探して」

当事業団は、平成6年3月に

設立されて以来、「すべての市民がすぐれた文化環境のもと、うるおいと活力のある生活を営める地域社会の実現」を基本理念に佐野市の文化振興の基盤となるべく様々な事業を開展してまいりました。

また、市民の皆様には、日頃より当事業団の運営につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げますとともに3月11日の東日本大震災にて被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

佐野市でも、余震の恐れや計画停電によりいくつかの事業が中止されました。文化芸術は本来、私たちの心に安らぎと力を与え、地域の絆を強め、明日への希望を与えてくれるものであります。

被災者への配慮や電力事情、安全性などを十分踏まえた上で、今後とも文化の創造や、文化に親しむ活動を積極的に行う事が、地域の復興を支える力になると 思います。



「文化芸術と地域と伝統」松井憲太郎

コラム



詩人の辻井喬氏が著した『伝統の創造力』という本があります。

氏はその中で文化の領域における伝統のことを「その地域に住む人たちが持っている感性に基づき、思考の様式、表現の様式そして美意識である」と定義しています。また、伝統とは不变ではなく、時代と人びとの変化や必要に応じて日々更新されてきたものであり、現在の日本の文化と芸術が力を持つているのだとしたら、そうした創造力に富む伝統とのつながりを欠いてはいることに原因があるという旨のことを述べています。

当事業団についても新しい公益法人を目指し、様々な改革を進めました。今年度は今までの事業のほかに、文化・芸術に関心のある方々の自主事業の企画制作能力の向上及び公立文化施設の利活用の推進等を

図ります。また、その成果を広く還元するとともに、文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりの一環として、講座やワークショップ事業などの次代の佐野市を担う人材の育成を促進していきたいと思つています。

平成20年に始まった公益法人制度改革ですが、ようやく当事業団も公益認定申請までこぎつけることができました。これからも公益法人を取り巻く様々な課題に対しても、積極的に取り組んでまいりたいと思います。今後とも、当事業団の活動につきまして、ご理解をいただき、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

富士見市には多くの縄文遺跡があり、その最大のものは水子貝塚です。公園として保存されたその遺跡の中心には直径百メートルほどの広場があり、そのままわりを堅穴式住居群の跡が囲んでいます。広場の真ん中に立つてみると、かつてその集落に暮らした縄文の人びとが催したはずの祭り、ないしは文化的、芸術的な営みに私の想像は及びます。直接のつながりは持たないにしても、この広場には今この地で生きる人間の文化や伝統の起源があるのだという思いに胸が揺さぶられるのです。

時代は下り、明治には富士見一帯に三つの村が生まれ、やがて町となり、約四十年前に市となりました。およそ七千年前から現在にいたる文化と伝統の水脈は複雑に枝分かれし、蛇行し、時には断絶もして、もはやそれを「筋の道と捉えることは不可能です。しかし先人の築いた「思考の様式、表現の様式そして美意識」、すなわち伝統になんらかのつながりを保つて私たちの現在があるのだと想像することは、文化芸術活動に携わる者に大きな勇気や力を与えます。ですが、文化施設運営の専門家として、私は想像にのみ甘んじることは許されません。富士見という地域のなかに埋め込まれた伝統の連続性や発展のあり方を具体的に描き出し、それを施設の事業や運営に生かしていくのが私の使命となります。

今後もし縁あって、佐野市の方々と活動をともにする機会があつたなら、富士見とは異なる、佐野の地に息づく固有の文化と伝統の水脈を踏査する旅を試みたいと思います。

平成22年度事業報告及び収支決算

平成23年5月10日に開催されました平成23年度第1回理事会及び評議員会において、平成22年度の事業報告並びに収支決算が承認されました。

▼芸術・文化活動振興事業

○芸術鑑賞会

『女は遊べ物語』（明治座／東京都）の鑑賞

期日 平成22年9月21日（火）

『ドガ展』（横浜美術館／神奈川県）の鑑賞

期日 平成22年11月24日（水）

○企画展開催事業

「幕末の佐野」／文化振興事業団・郷土博物館

期日 平成22年5月1日（土）～6月15日（火）

場所 佐野市郷土博物館

内容 幕末の動乱期から明治維新を経て、日本

が近代国家へ発展していく中で、市内に領地があつた彦根藩主井伊直弼

に関係する文書や尊王攘夷運動の太平山事件や出流山事件などを中心に佐野市域の変遷を紹介した。



▲島田文雄展にて同氏による記念講演会

○芸術・文化活動助成事業

助成

「島田文雄展」／文化振興事業団・吉澤記念美術館共催事業

期日 平成22年7月10日（土）～9月26日（日）

場所 佐野市立吉澤記念美術館
内容 佐野市出身の東京藝術大学教授である島田文雄氏の青白磁や釉下彩技法「彩磁」等の作品のほか、彩磁とチャイナペインティングの併用など、新たな技法による作品など、学生時代から最近作まで、約80点を展示了。

○佐野城跡（春日岡城）を考える／文化振興事業団・郷土博物館共催事業

期日 平成22年10月9日（土）～11月21日（日）

場所 佐野市郷土博物館

内容 これまで、佐野城（春日岡城）は築城期間の短さを理由に完成を見ることがなく廃城になつたものと考えられてきた

が、17次にわたる発掘調査の結果、完

成度の高い城ではないかと見直されて

いる。その発掘調査で発見された資料

を中心に展示した。

場所 若林鋳造所
内容 県指定文化財の鋳造資料や道具を保管するため保管棚の設置
期日 平成23年3月31日（木）

○文化財調査支援事業

指定文化財現状調査等支援事業として、市内に所在する各指定文化財の調査事業への支援した。

○その他事業

場所 若林鋳造所

内容 県指定文化財の鋳造資料や道具を保管するため保管棚の設置

○事業団報の発行

事業の概要等を知らせる事業団報「かがやき」第16号を発行し、市内全世帯に配布した。（平成21年7月30日発行）

貸借対照表

平成23年3月31日現在(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	1,383,591
2. 固定資産	
(1) 基本財産	500,000,000
(2) 特定資産	426,085,776
(3) その他固定資産	4,162,706
固定資産合計	930,248,482
資産合計	931,632,073
II 負債の部	
1. 流動負債	4,812
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	895,822,596
(うち基本財産への充当額) (500,000,000)	
(うち特定資産への充当額) (395,822,596)	
2. 一般正味財産	35,804,665
(うち特定資産への充当額) (30,263,180)	
正味財産合計	931,627,261
負債及び正味財産合計	931,632,073

平成23年度事業計画

「すべての市民が優れた文化環境のもとで、うるおいと活力のある生活を営める地域社会の実現」を基本理念に、佐野市の芸術・文化の振興を図るために、次の事業を行います。

▼演劇鑑賞会事業

「歌舞伎鑑賞教室」の開催

国立劇場7月歌舞伎教室「義経千本桜」

期日 平成23年7月6日(水)

▼企画展共同開催事業

「小堀鞆音没後80年企画展」の開催

(佐野市郷土博物館、佐野市立吉澤記念美術館との共催による同時開催)

期日 平成23年10月1日(土)～11月13日(日)

▼芸術・文化活動助成事業

・芸術・文化団体による主催事業への支援

・伝統芸能保存活動への支援

※芸術・文化活動助成金(@150千円)

▼芸術・文化に関する人材育成事業

・舞台裏方入門講座

期日 平成23年7月8日(金)～10日(日)

場所 佐野市文化会館

期日 平成24年1月14日(土)～15日(日)

場所 佐野市文化会館

期日 21日(土)～22日(日)

場所 佐野市文化会館

期日 30日(土)～31日(日)

場所 佐野市葛生あくとプラザ

期日 17日(土)～18日(日)～23日(金)

場所 佐野市葛生あくとプラザ

演劇ワークショップ(大人)

期日 平成23年12月10日(土)～11日(日)

期日 17日(土)～18日(日)～23日(金)

場所 佐野市葛生あくとプラザ

募金のお願い

佐野市の芸術・文化振興のため
「文化振興事業団寄付金」にご協力ください。

◆ 詳細については

佐野市民文化振興事業団事務局
☎ 0283-62-9554
<http://www.mirun.sctv.jp/~z-sabn>

- 事業団報「かがやき」の発行
年1回(8月)発行、市内全戸配布

▼共通事業

7月8日(金)～10日(日)に佐野市文化会館にて、舞台裏方入門講座を開催しました。講師の龍福孝明氏の指導のもと、舞台の仕組みから音響、照明の基本的な操作方法などを学びました。



▲講師から照明の操作方法について熱心に耳を傾ける受講生たち

参加者からは「今まで舞台の完成された素晴らしさだけを観ていたけれど、内側の部分である大変さを知ることができた。舞台というものの魅力を改めて感じることができて、とても良かった。」と いう声がありまし た。

◆事業団からのお知らせ
芸術・文化活動団体の事業に援助します。

◆事業団からのお知らせ

- (1) 地域の芸術・文化振興活動事業助成金
市内で芸術文化活動を行っている団体が主催する文化水準の向上を目的とする事業で、地域の特色を活かし、個性豊かな地域文化を創造する次に掲げる事業
- (2) 活動成果の発表会、展覧会、文化講演会、コンサート、市内の文化資源を題材にした催し物等の事業(ただし、定例的な事業については、第1回や通例よりも大規模に行う〇周年記念事業等を対象とします。)

② その他理事長が適当と認める事業

- (2) 地域の伝統文化保存・育成事業助成金
国、県、佐野市の指定となつた無形民俗文化財の保存、担い手の育成を目的とした事業に対して助成対象経費から事業収入(入場料収入、広告料収入等)を控除した金額の1/2を限度として最大15万円を助成

- ※いずれの事業も市や他の団体からの補助対象となつた事業、営利目的とした事業等は除きます。



小堀鞆音 没後80年記念企画展



佐野市出身の日本画家、小堀鞆音は昭和6年（1931）10月1日に亡くなりました。没後80年となる本年、佐野市郷土博物館・佐野市立吉澤記念美術館で同時に小堀鞆音の展覧会を開催します。

【小堀鞆音】

文久4年（1864）、安蘇郡旗川村字小中（現在の佐野市）の画家、須藤晏斎の子として生まれ、父と長兄・桂雲に学んだ後、上京して川崎千虎に入門。正確な歴史考証に基づく歴史画の第一人者として活躍した。東京美術学校助教授・文展審査員をつとめ、安田靄彦、川崎小虎ら優れた画家も育てた。



小堀鞆音「武士」
東京藝術大学所蔵
明治30年

画家が最も得意とした
「武者」主題だけでなく、
「文学」主題の作品も展
示。明治30年前後の代
で、市内初公開作品を含
む約20点を展示します。

「武」と「文」の心を描く —代表作・市内初公開作を中心にして—	
開館時間	午前9時30分～午後5時
休館日	毎週月曜日（10月10日（月・祝は開館）
10月11日（火）～11月4日（金）	
観覧料	
一般	500円（450円）
大学・高校生	300円（270円）
中学・小学生	100円（90円）

※（）内は20名以上の団体料金

佐野市立吉澤記念美術館

電話 0283-1861-1008



小堀鞆音「常世到鎌倉図」
(佐野市郷土博物館蔵)

—佐野ゆかりの作品を中心に—	
開館時間	午前9時～午後5時
休館日	毎週月曜日（10月10日（月・祝は開館）
観覧料	
一般	200円（100円）
大学・高校生	100円（50円）
中学・小学生	50円（30円）

※（）内は20名以上の団体料金

佐野市郷土博物館

電話 0283-1111-1511

鑑賞ツアー参加者募集

市内の美術館等をまわるバスツアーです。小堀鞆音展をはじめ、佐野ルネサンス鉄金展をご覧いただきます。芸術の秋、身近な素晴らしい作品に触れてみませんか？各会場では、作家、学芸員等によるギャラリートーク（解説）があります。

日 時 平成23年11月1日（火）午後1時

場 所 郷土博物館集合

参 加 費 無料

行 程 ①郷土博物館⇒②吉澤記念美術館⇒③文化会館⇒④郷土博物館（解散）
(小堀鞆音没後80周年記念企画展) (佐野ルネサンス鉄金展)

電 話 (0283)62-9554

※申込方法：財團法人佐野市民文化振興事業団にお電話にてお申し込みください。

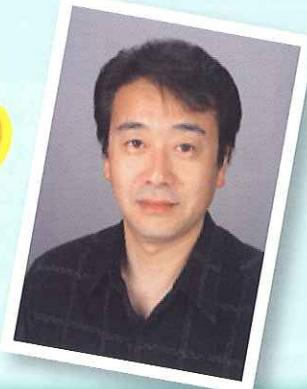


これからの文化・芸術事業のご案内

演劇ワークショップ

演劇が好き、または関心がある方はもちろん、身体を動かしながら、自己表現・プレゼンテーションの力を高めたい方のご参加をお待ちしております。演劇をやったことのない人もプロが一から教えるプログラムです。身体と頭と心をほぐし、表現リテラシーを磨きましょう。

日 時	平成23年12月10日(土)・11日(日) 17日(土)・18日(日)・23日(金)の計5回
時 間	13:00~
場 所	佐野市葛生あくとプラザ
講 師	加納朋之氏ほか文学座の俳優
募 集 人 数	30名(高校生以上)
参 加 費	500円(テキスト代、保険料含む)
※申込方法	財団法人佐野市民文化振興事業団にお電話にてお申し込みください。 TEL. 0823-62-9554



アートマネジメント講座(仮称)

優れた舞台芸術を生みだし、多くの人々がそれを鑑賞し楽しんでいただくためには、「創り手」と「受け手」をつなぐ専門的な人材(アートマネージャー)が必要です。当事業団では、そうしたアートマネージャーを育成するために、アートマネジメント講座を開催します。アート全般に関する気運が高まるなか、専門家を目指す方だけでなく、ぜひ多くの方に講座を聞いていただきたいと思います。

日 時	平成24年1月14日(土)・15日(日) 21日(土)・22日(日)の計4回
時 間	13:00~
場 所	佐野市文化会館
講 師	松井憲太郎氏
募 集 人 数	30名(高校生以上)
参 加 費	無料

※申込方法 財団法人佐野市民文化振興事業団にお電話にてお申し込みください。
TEL. 0823-62-9554



事業団報「かがやき」もおかげさまで、今年度も第17号を発行することができました。これもひとえに多くの市民の皆様にご協力いただいた賜物であります。今年は、表紙で特集しましたように、佐野市出身で最初の東京藝術大学の教授として活躍されました小堀聴音の没後80年記念企画展を佐野市郷土博物館、佐野市立吉澤記念美術館と共催で同時開催いたします。11月1日(火)には両館を巡回鑑賞ツアーを企画いたしましたので、是非とも多くの皆様に参加していただければと思います。

また今回の団報では、キラリふじみの館長であり、当事業団の事業選考委員に就任していただいた松井憲太郎氏から「文化芸術には昔からその地域に住んでいる人々の感性、つまり、地域の伝統を大切にし、それを芸術文化活動に活かしていくこと」の重要性を自らがお住まいの富士見市の事例を含めてご提言頂きました。理事長のあいさつにもありましたように、当事業団も今回の公益法人の制度改革に伴い様々な事業や組織改革を行いました。松井氏に委員になつていただいたことやワークショップ、アートマネジメント講座の開催もその改革の一つであります。

最後に、毎日暑い日が続きますが、これから芸術の秋に向けて、今回団報で紹介したイベントを開催しますので、ぜひとも多くの市民の方に参加していただければと思います。事務局もこれまで以上に佐野市の芸術・文化の発展に貢献できるよう努力してまいりますので、今後とも更なるご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

編集後記